

議 事 録

件名 アパレル技能科 教育編成委員会 管理No 8

日 時	2022年3月16 14:00～16:00	
場 所	東京服飾専門学校(ホール) 豊島区巣鴨1-19-7	
出 席 者	一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会 北畑 聡様(代理 境泰志様) 一般社団法人 日本モデルエージェンシー協会 岩田 佳典様 有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田 えりこ様 株式会社クレヨン営業本部人事部マネージャー 吉田 愛里様(都合により欠席) ソーイングアサヒ株式会社 高橋 英一郎様(都合により欠席) 東京服飾専門学校 山下 節子(校長) 古賀由紀夫 荒井 光 鷲 典子 上野 菜月 内山 可南子	
欠 席 者	2名	
概 要	1.次年度における各科カリキュラム、シラバスの配布と編成経緯、変更点、留意点について 2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整	
内 容	①挨拶 ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へのお願い。 ・第8回 教育編成委員会の目的と議事項目 ②職業実践講座授業の実施途中結果 ・前回指摘のあったプレゼン能力向上においては、パワーポイント使用など使用も含め強化を行い緊張しながらも声をだして話すことが出来ていた。 今年度の全員がプレゼンを行う事は成果があった。 ・自分のイメージを伝える手段としてのデザイン画(平絵)の授業時間数も増やし、スキルアップを今後も行っていく。 ・工業生産技術の習得に向けて、工業用ミシンの授業を増やしたり、穴かがりミシンの増設を行った。 ・生産技術実習においては、仕様書、原価計算、下代、上代の生産性に関する知識なども折り込む教科の設置を行なった。 ・テーマが広すぎるため、絞り込みを行い授業の内容だったり、集中度を高める。 ・授業の中間にもチェックを行う事により、理解度がより深まる。 ③今後の展望や問題点、課題 [有限会社 ビーシーコスチューム太田様] ・バレイ衣装に特化した授業を行う事が出来れば、より専門的に深く出来る。 :他の衣装にも全て繋がっている。 ・プレゼンテーション能力の育成が必要である。 :話が苦手な場合などは、絵に文字をつけ加えるなどの相手に伝えるためのツールを準備する。 :事前に発表の練習が必要である。 ・専門的な知識は事前に準備が必須である。 ・機材の導入を行い全員工業ミシンを使う事は出来るようになったが、技術の習得においては反復する事により習熟度をあげていく必要がある。	

		・就職に関しては、現在人手不足で、なり手も少なく育たない状況にあり受け皿は少ないが、目指してくれる人が増えると業界は助かる。 ・プレゼンテーション能力(自己アピール)が必要である。＊面接の中での判断基準となる ・対等になれるまでの忍耐力が必要である。 ・実務経験としての知識、技術の習得がこれから業界に出て行った場合に重要になってくるので、実際の研修などを通して就職に繋げてほしい。(今年度はバレイ経験者という事での募集でしたがすべてではない) ・今回のコロナ禍により、レンタル部門は壊滅的な打撃を受けたが、プロバレイ団は公演を行ったので製作の方の仕事は続ける事が出来た。 [学校側] ・学生達にとってよりわかりやすく理解を深めるため、インタラクティブボードを使用して学生には、一人一台のタブレットを貸し出す事により、手元で確認、復習、自宅においても視聴出来る。 ・授業のオンライン活用、プレゼンツールの利用 ・1年次は基礎部分を習得、2年次には各学科事でインターンシップ研修等を通して実践型を行ない、企業連携の中で業界の人材ニーズを把握しながら人材育成を行なっていく。 ・企業との連携はこれからも、学生達が実社会に出て行き実務を行なっていくにあたり、とても重要でより深めていく必要がある。 ・技術面においては反復する事により習熟度を上げていく事が重要である。 ・就活にあたり、プレゼンテーション能力の強化は不可欠になってくるため反復練習とポートフォリオなどの準備が必要である。 ④総括 引き続き、全学科において企業と連携したインターンシップ研修を実施。 企業理解、職種理解を深め、学生一人一人が自主的、主体的に学修に取り組み業界のプロとして活躍できる知識、技術、技量を身につけられるように育成をしていく。 これからの世の中の情勢を踏まえて、学校としてDXを推進、整備していく。
添 付 資 料	教科内シラバス、職業実践講座関係資料	
決 定 事 項		
課 題 事 項		
次 回 日 程	2022.3	
特 記 事 項		

	作成者
	中島